

2 授業の実際

第1学年 実践例

本時：平成27年2月3日(水) 場所 1年教室 指導者 教諭 谷川 滋子

1 単元名 1年「ふゆと ともだちに なろう」(教育出版)

2 単元について

- (1) 本単元は、学習指導要領の(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものであり、1年間を通した校区内の自然とかかわる活動の締めくくりとなる単元である。

我が国は、四季の変化に富んでおり、人々は昔から季節と深いかかわりを持ちながら生活してきた。しかし、近年、生活の変化に伴い、季節感が薄れ、子どもが四季の変化に敏感に反応する機会を失いつつある。また、既製のおもちゃで遊ぶ機会が増えたことによって一人遊びも増え、友達と一緒にいてもお互いに違うことをして遊んでいたりと、思うように遊べないと一人遊びをしたりする傾向が見られる。

そこで、自然や物を使った遊びに思う存分浸らせることで、楽しさを味わい、そこから季節の変化や生活の工夫のすばらしさに気付かせたり、遊びを創り出すことの楽しさを味わわせたりすることがとても重要である。また、昔から伝わる遊びを大人から教えてもらったり、一緒に遊んだりすることは、家族や地域の方とのふれあい、伝統文化を次世代に受け継ぐという意味からも大切なことであると考えます。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。

1年	1年	1年	1年	2年
はるを みつけ に いこう	なつと ともだ ち になろう	あきと ともだち になろう	ふゆと ともだち になろう	作ってためして

- (3) 本単元にかかわる児童の実態は次のとおりである。(19名)

- ①冬の生き物の様子について(以下、数字は人数)(複数回答)

冬眠する9 葉っぱが凍る6 木の葉が枯れる2 草が凍る3

- ②知っている冬の遊び(複数回答)

こま16 たこあげ14 雪だるま作り9 羽根つき8 けん玉6 だるま落とし5
おはじき4 お手玉2 そり遊び2 雪合戦2 縄とび1 おしくらまんじゅう
1

- ③凧あげの経験 ある15 ない4

- ④凧作りの経験 ある12(ビニール凧) ない7

- ⑤凧あげのコツについて(複数回答)

風の向きに沿って走る1 風の反対側に行く2 風や空気を入れる1 風が吹いているときに
上げる1 風がないときは走る2 走る2 風に負けないように操縦する1 分からない9

3 仮説にせまる授業での取組

- (1) 実生活との関連を図った問題設定の工夫(仮説1)

○冬の自然がどのように変わっているかこれまで見た経験を出し合い、校庭に冬探しにでかける。

○家庭で昔遊びについてインタビューをさせて、昔遊びをより身近なものとしてとらえさせる。

○昔から伝わる遊び道具を提示し、昔の遊びに対する期待感をもたせる。

- (2) 科学的に思考・表現できるような場の工夫(仮説2)

○校庭の「冬探し」で見つけた冬をシートに記入し、全体で交流させる。

○家庭にある材料を使って校庭のあちこちに水を入れた容器を置き、「氷ができやすいのはどの場所か」予想を立て、そう思うわけを話し合わせる。

○凧あげのコツをゲストティーチャーにアドバイスしてもらい、風の捕まえ方を知ることにより楽しく遊べる体験をする。

(3) 実生活と関連付けて、理科につなげるよさや楽しさを実感させる工夫(仮説3)

○天気と霜柱、氷などの関係について、日常生活の中で気付いたことを話題に取り上げていく。

○正月遊びや昔から伝わる遊びを体験させ、家庭でも経験できるよう呼びかけて、遊び方を教わったり、寒い気候を生かした遊び、友達や家族とかかわって遊ぶよさを体感させたりする。

4 単元の目標

①冬の自然の変化や昔から伝わる遊びに関心を持ち、冬の寒さに負けずに元気に生活していこうとする。

②冬の自然の様子を絵や作文に表したり、昔から伝わる遊びの遊び方やルールを工夫したりしながら楽しむことができるようにする。

③冬の樹木や草花、虫などの様子から季節の移り変わりや自分の生活の変化に気付いたり、昔から伝わる遊びを経験することで生活を楽しくしていくことのよさに気付いたりすることで、これからの自分たちの生活や遊びを工夫していこうという意欲をもつ。

5 単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
① 身近な自然や季節に目を向け、関心をもってかかわろうとしている。 ② 正月遊びや昔から伝わる遊びに関心をもって、楽しく遊ぼうとしている。 ③ 思いや願いをもって、遊びや遊びに使うものを作ろうとしている。	① 諸感覚をつかかって、冬の自然を観察している。 ② 正月遊びや昔から伝わる遊びのルールを考えて遊びを工夫している。 ③ 身近にあるものを利用して、遊びに使うものを作り、大人に教えてもらったり自分なりに工夫したりして遊んでいる。	① 冬の自然の様子や季節の変化に気付いている。 ② 友達や地域の人とかかわって遊ぶ楽しさ、それぞれの人のよさや自分との違いに気付いている。 ③ 遊びの楽しさや遊びを工夫したり創り出したりする面白さに気付いている。

6 指導と評価の計画 (11 時間取扱い)

次	時	主な学習活動 [◇教師の指導・留意点] <>…小単元名	評価規準及び評価方法	
第1次	1 1時間	<ふゆと ともだち> ○身近な地域の様子や生活の中で、季節の変化を感じることを発表する。 ○単元の流れを知り、活動のめあてをもつ。	◇単元の流れを確認し、活動の見通しをもたせる。 ◇できる範囲で、写真を撮っておく。	関心・意欲・態度① 発表
第2次	2 3 2時間	<ふゆを見つけにいこう> ○冬の校庭に出かけ、秋の様子と比べながら自然を観察する。 ※寒い日に雪や氷・霜を使った遊びをしたり、氷を作ったりする。	◇見つけた冬を発見シートに記入させる。 ◇天候が関係することなので、氷作りの準備をして、臨機応変に対応する。	思考・表現① 観察・シート 気付き①・シート

第 3 次 8 時 間	＜ふゆと あそぼう＞			
			1 どんなあそびが できるかな 2 きたかぜとあそぼう	
	4	○正月にする遊びや昔から伝わる遊びを出し合う。	◇「昔からある遊び道具」を提示する。	関心・意欲・態度② 発表・観察
	5	○いろいろな遊びを紹介し合う。	◇事前に、おうちの方に正月にする遊びや昔から伝わる遊びについてインタビューをしておき、紹介し合う。	思考・表現② 観察・発表
	6	○好きな遊びを体験する。	◇できるだけたくさん遊びが体験できるように約束ごとを決めておく。	気付き② 観察・シート
	7			
	8	○身近なものを使って凧を作る。	◇教科書を参考に、凧の絵を描かせ作り方を考える。	関心・意欲・態度③ 気付き③
	9	○作った凧で遊び、凧上げのめあてをもつ。		観察・シート
	⑩ 本 時	○作った凧で遊んで、凧あげのコツや楽しさについて気付きを話し合う。	◇どうやって風を捕まえるのか、凧が上がるコツについて気付いたことを出し合わせる。	思考・表現③ 観察・シート
	11	○昔から伝わる遊びのよさをまとめる。	◇正月にする遊びの言われについて知り、今後も凧上げなどの遊びを受け継いでいこうという気持ちをもつ。	思考・表現③ 観察・シート

7 本時の学習 (10/11 時間)

(1) 目標

作った凧で遊んで、凧あげのコツや楽しさについて気付きを話し合う。【思考・表現】

(2) 仮説との関連

本時においては**仮説3**を中心として研究を進める。身近な材料を使って凧を作り、遊ぶ体験をする。そのことは、手作りのおもちゃでも充分楽しく遊べることを実感し、自分で遊びを創造していこうとする意欲につながる。また、どうやって風を捕まえるのか、身近な人にアドバイスを受け、凧の飛ばし方を工夫していくことは、科学的な思考をしたり、身近な人とのかかわりを深めたりすることにつながる。さらに、凧あげの名人になるという目的意識をもたせ、活動の工夫を発表し合うことで、季節に合った生活の工夫の素晴らしさに気付かせたり、遊びを創り出すことの楽しさを味わわせたりすることができる。と考える。

(3) 展開

過程	時間	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
つかむ	5	1 本時の流れの見通しをもつ。 (1) 活動の流れを知る。 (2) めあてを確認する。 (3) ゲストティーチャーにあいさつをする。	○本時の活動の流れを確認する。 ・めあて ①凧あげをして遊ぶ。 ②凧あげのコツをメモする。 ③凧あげのコツを発表する。 ・まとめ	テラス ボード めあて 学習の 流れ ルール
		(めあて)たこあげのコツをみつよう～どうやってかぜを捕まえるのかな～		

もとめる	20	<p>2 凧あげをして遊ぶ。</p> <p>(1) ルールを確認する。 (2) 凧あげをする。 (3) 凧あげのコツや楽しさをメモする。</p> <p>3 どうやって風を捕まえるのか、凧あげのコツを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凧を広げて風を捕まえる。 ・風が吹いてくる方へ糸を引く。 ・風に向かって走って、風を捕まえる。 	<p>○凧あげのルールを確認する。</p> <p>(1) 班で二人組を作って交代であげる。 (2) 場所が、空いているところをみつけてあげる。</p> <p>○下記のような質問をしてめあてに沿った話し合いにする。どうして、どんなふうに等、思考を引き出す発問をする。 ○凧は閉じたままで走り出すのかな、広げてから走り出すのかな。なぜかな。 ○風が→のほうに吹いているときは、糸をどちらの方に引いたらいいのかな。 ○風が強いときと弱いときではどちらが、よく凧があがるのでしょうか。 ○風が吹いていないときは、どうすればいいのかな。</p>	<p>運動場 凧 ワークシート 赤白帽子</p>
まとめる	12	<p>4 凧あげのコツをまとめる。</p> <p>(まとめ) 「かぜのつかまえかた」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凧を広げる。 ・風が吹いてくる方へ糸を引く。 ・風が吹いていないときは、走る。 	<p>◆思考・表現③ (発言・学習シート)</p> <p>B基準 どうやって風を捕まえるのか自分の考えを発表することができる。</p> <p>A基準 どうやって風を捕まえるのかについて体験をもとに述べている。 〈B基準に達していない児童への手立て〉 賛同する考えを見つけさせる。 〈B基準に達した児童に取り組みさせる活動〉 どんなことをしたときに風のかまさえ方のコツが分かったかを言わせる。</p>	<p>教室 凧と風の図</p> <p>動作化</p>
ひろげる	5	<p>5 ゲストティーチャーの話を聞く。</p>	<p>○事前にお問い合わせしておきインタビュー形式で話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凧あげのコツ・子どもの頃、凧揚げで遊んだ思い出(身近な材料で身近な人と遊ぶよさを伝えていただく) 	<p>ゲストティーチャー</p>
	3	<p>6 本時の感想をまとめ、次時のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生たちに教えてもらって凧あげのコツがわかった。 ・今度はもっと風の強い日に凧あげをやってみたい。 ・家にある材料で作れるから、家でも作ってみたい。 	<p>○凧揚げのコツがわかった喜び、大人のアドバイスの温かさ、友達と競って遊ぶ楽しさ等に分けて板書でまとめていく。</p> <p>○休み時間や家庭でも、凧を作って遊んでみようという意欲をもたせる。</p>	

○ 「徹底指導」と「能動型学習」

前時までには凧作りをして凧をあげる経験をしておき、今回はもっとうまく凧をあげたいという意欲をもたせることで、能動的な学習につなげたい。そのために、凧あげで「どうやったら風を捕まえられるのか」という活動のめあてを確認し、ワークシートに記入すること(徹底指導)で、個人がスムーズに活動を進めることができるようにする。この凧あげを通して、自然を生かした身近な遊びを再発見させたい。

○ 本時で身に付けさせたい科学的な言葉

風を捕まえる、強い風、弱い風、風の向き、凧がふくらむ、冬

8 研究の実際

児童の多くは、冬の生き物の様子について「草花が凍る、枯れる」「カエルや蛇は冬眠する」などの知識をもっている。また、冬やお正月の遊びとして「雪だるま作り」「雪合戦」「凧上げ」「コマ回し」などの経験をしている。しかし、これらが自然の変化を生かした遊びであることについての気付きや、遊び方の工夫についての知識は少ない。

【仮説1について】 実生活との関連を図った問題設定の工夫する

本単元の導入で、昔遊びを経験させたあと、「昔遊びのことをおうちの人に聞いてみよう」というめあてを知らせ、昔遊びについての取材をした。「おかあさんは、森の中に基地を作って遊んでいたそうです」「おじちゃんに作ってもらったターザンロープで遊んでいたそうです」「おとうさんは、野球をしていっぱい友達ができたそうです」などと発表し、自分たちも昔から伝わる遊びをやってみたいという意欲を見せていた。また、2学期に、保育園児を招待して「秋のたからものランド」(写真1-①)を開いた経験を思い出し、冬の季節を生かした遊びも、みんなで遊び道具を作ったり遊び方を工夫したりして遊びたいという意欲を見せていた。



(写真1-①)

【仮説2について】 実生活と関連付けて、思考・表現できるような手だてを工夫する

自分の考えをもたせるために昔遊びの体験をさせた。いろいろな遊びを体験できるように道具を準備し場づくりをした。1週間ほど遊ばせたあと、一つを選んで「遊びのコツをみつけてみんなに知らせよう」というめあてを提示した。希望する遊びごとにグループを作り、上手になったり面白くなったりするという視点から遊びのコツを見つけ、遊んだあとに発表させるようにした。はじめは馴染みの薄かった遊びもコツを見つかったりルールを工夫したりして、自分たちの冬の遊びへと広がっていた(写真1-②③)。



(写真1-②)

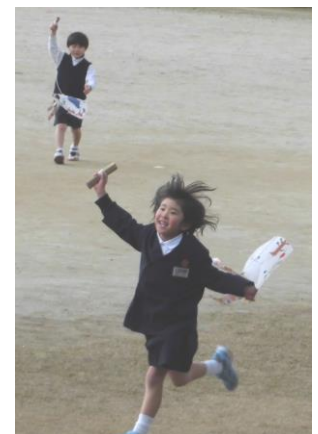
また、手づくりの凧で遊んだ経験が少なかったので、竹ひごとスーパーマーケットの買い物袋(ビニール袋)を使って凧作りを行った。竹ひごとビニール、たこ糸は長さを決めて切ることにしたが、凧足は、見本を参考にして長さや幅、貼る場所を各自考え、広告紙を自由に切って張ることにした。凧作りの後は、「凧揚げのコツを見つけて凧揚げの名人になろう」というめあてに全員で取り組んだ。さらに凧揚げのコツとして「どうやって風をつかまえるのかな」という2次の問題を提示したところ、風を捕まえ、高く凧を飛ばそうと、意欲的に取り組んでいた(写真1-④)。そして、「大きく手を上げて、長く糸を伸ばしていく」など、自分が見つかったコツをワークシートに記入した。



(写真1-③)

<凧上げのコツ>

- C1: たこが下がったときに、速く走る。
- C2: たこひもを長くして走ればいいと思います。たこを見て走ればいいと思います。
- C3: 風が吹いている方角に走るといいと思います。
- C4: 手を高く上げる。
- C4: モーニングダッシュのラストスパートのときの速さで走る。
- T: なぜかな。
- C4: 風に負けないくらいとぶから。
- C5: ペアの人に高く持ってもらおうといいと思います。



(写真1-④)

T：どうやって風をつかまえるといいでしょうか。

C6：風が吹いている方と反対側に走ります。同じ方だと「あー」と風が落ちてしまいます（写真1-⑤）。

T：風に向かって糸をひっぱるね（写真1-⑥、⑦）。

C7：風が吹いているときは、あまり走らなくていいです。

C8：今日みたいに走らなくていい。



(写真1-⑤)



(写真1-⑥)



(写真1-⑦)

【仮説3について】 実生活と関連付けて、理科のよさや楽しさを実感させる工夫をする

この学習をまとめる前にゲストティーチャー（本校用務員の先生）に、凧揚げの思い出や凧揚げのコツを話してもらった（写真1-⑧）。凧揚げが昔から人々が伝えてきた魅力的な遊びであることを再認識するとともに、自分たちが話し合った凧揚げのコツ以外にもコツがあることを知ることができた。

＜凧揚げについてゲストティーチャーにインタビュー＞

T：凧揚げのコツを教えてください。

GT：風がある日は、引きながら糸を伸ばすといいです。

T：子どもときの凧揚げの思い出を教えてください。

GT：尻尾を長く付けて、友達に持ってもらって飛ばしました。くるくる回るときは、風が重すぎるからです。わたしは、風の尻尾を切りながら調整していました。



(写真1-⑧)

児童はこの授業の後、風がある日を見つけては凧を持って運動場で凧揚げをしていた。風に煽られ、糸を引きながら揚がる凧の感触を楽しんでいる様子だった。運動場のたんぼ山からかけ下りて風を受けたり、凧の様子を見て走る方向を変えたり、糸を引きながら伸ばし糸をグイッ、グイッと引っ張って「揚力」をうまく利用して飛ばしていたり、それぞれがしばらくの期間凧揚げを楽しんだ。そして、顔を真っ赤にして教室に戻ってきていた。寒い冬の気候や風を味方にして遊ぶことができ満足そうであった。

本単元での活動を通して、児童は、冬の自然への関心が高まり、冬の寒さの中で風に向かって強い風を利用して楽しむ凧揚げの面白さを体感することができた。また、ゲストティーチャーの話から、凧揚げが昔から伝わる遊びであることや、身近な人々も近くのたんぼ等で凧揚げをしていたという光景を思い浮かべたりして、自分の学びを深め広げることができた。自然を生かして遊ぶことの楽しさを体感したことは、今後も自然の中で、自然を活かした遊びを楽しんでいこうとする態度を培うことにつながった。